

# 「公民館」という地域のコミュニティを活用した演劇づくり

## 劇団公民館京山

### 活動の目的

家族、学校、会社等は生活の中で欠かせないコミュニティだが、それ以外に活動の場やネットワークを作ることが個人個人の成長に繋がると考え、「公民館」という地域のコミュニティをもっと活用することにした。演劇という手法により、舞台という共通の目標に向かい、役者や裏方等の役割担う中で、人と人が面と向かいともに活動し、自分と向き合う中で自分自身のやりたいことを活用し、五感を通じて思いを伝え、受け取る体験を提供する。

### 活動の内容及び経過

平成30年1月28日（日）、岡山市立京山公民館での第13回京山地区ESDフェスティバルにて、ミュージカル「つながるねがい京山編」の上演。来場者85人。

京山地区ESDフェスティバルは今回で13回目になる。劇団公民館京山は、第4回から参加させてもらって、今回で第11回目の公演になる。当劇団は毎回、オリジナル演劇を制作して上演している。今回は、岡山と関連深い鶴を題材にした作品を制作する予定で進めていた。そのなかで池田綱政が後楽園に降り立った鶴について詠んだ和歌に興味を持ち、「鶴がいる後楽園についてもテーマにしよう。」ということになり、後楽園の歴史も盛り込むこととした。

実際、制作作業を行っていくうえで、後楽園について何も知らないことに気付いた。そこで、後楽園に行ってみたり、図書館等で調べたりした。すると後楽園築庭に関して面白いことが分かった。池田光政とその息子綱政、及び両方に仕えた津田永忠の関係が、現代にも通ずるモノがあると考え、台本を最初から作り直すことにした。「まいしるべ」という鶴をモチーフにした物語に、親子の葛藤というエッセンスを加えた演劇を創り上げた。

練習は、平日の夜や土日を中心に、週1回程度行い、本番が近づくと週5回集まることもあった。

### 活動の成果・効果

今回のミュージカルでは歴史的な背景を基に脚本をつくりあげた。そのため、劇団員の中での話し合いとともに音響や写真によるイメージ共有を行った。また、観客を惹きつけるためのメリハリも意識し、ダンスや演技を構成していった。その結果として、公演後のアンケートにて、「俳優さんが素敵で、歴史上人物イメージと合っていた」、「岡山の歴史と文化を知る良い機会になりました」、「ミュージカル風のアレンジもされてとても楽しく拝見しました」、といった、意見をいただくことができ、公演は意図した効果が得られた。



また、公民館との協働として、「津島八朔踊り」や「伊島詩吟クラブ」の方にもご出演いただき、舞台の時代設定である江戸時代における地域との歴史的つながりを劇団員が地域の方との交流とともに学び、公演として観客の方へお伝えすることができた。

劇団員自身も各々の役割を認識しながら、一つの作品をつくることができた。それにより、公演後劇団の話し合いでは、劇団員自身の成長が確認でき、互いの役割を認めあうことができたことも成果の一つであると考えている。

### 今後の課題と問題点

今回は、途中で脚本のやり直しとまではいかなかったが、大幅な修正を加えることとなった。そのため、資料集めや現地調査などの工程が追加になり、脚本作製に時間を要してしまった。その結果、劇団員の日程調整に苦心し、全体の工程が遅れ気味になった。

このことについては劇団員の人数不足という側面もある。脚本づくりが順調に進んだとしても、今回の人数ではできないことに限界がある。今後は、この活動をもっと積極的に、外に向かってアピールし、共感してもらえる若者などを募集していきたい。

- 代表者：根木伸介 ●所在地：岡山市北区奉還町
- E-MAIL：Gekidan\_kouminkan@gmail.com
- URL：http://www.kc-d.net/pages/esd/gekidan09.htm
- 設立年：2009年 ●メンバー数：25名